

マイブンだより

平成24年9月21日 第6号

発行 都城市教育委員会事務局

文化財課

○ 明道小学校第6回出前授業・体験学習会（6月25日）～勾玉づくり～

6回にわたって開催してきた出前授業及び体験学習会もいよいよ最終回です。時代は一つ前に戻り、弥生時代にたくさん作られた勾玉を実際に作る体験学習です。その前に、



おさらいです。体育館に広げられたブルーシート。中に赤のビニールテープで丸く線が引いてあります。その作成途中と出来上がりが下の写真です。いったい何でしょうか。子どもたちに質問してみました。すると、即座に「花弁型住居」と正解が返ってきました。さ、さすが！！ そうです。現在の南九州大学の敷地内を発掘した際に発見された



た住居跡で、上から見ると、花びらの模様をしています。宮崎と鹿児島に多く見られる、竪穴住居の形で、独特の住居です。9m×9.5mで約26坪と大変広く、世帯も大きくなっていたのかもしれませんが。検出された柱穴が5本あったので、そこに模擬の柱を立て、子どもたちには、住居の外と中からその大きさを体感してもらいました。



この後、弥生時代の衣服を紹介しました。縄文時代は、衣服に男女の別はありませんでしたが、弥生時代は区別されています。下の写真の左側が男用、右側が女性用貫頭衣です。女性用はワンピースで、帯を結んでいます。なかなかおしゃれたとは思いませんか。ただ、「パンツはありませんよ」と言ったら、子どもたちは「えーっ」、女の子は「きゃーっ」とびっくりしていました。昔と今は違うのですが、こんな生活の違いを授業などでは教えてはくれませんか。パンツをはくようになったのは、いつの頃からでしょうか？



なったのは、いつの頃からでしょうか？

そして、いよいよ勾玉づくりの始まりです。その前に、より雰囲気を出すために、子どもたちにも弥生人になってもらいます。衣服を持ってきましたので、希望者に着用してもらいました。男女とも希望者多数で、結構気に入ってもらったようで、よかったです。勾玉



づくりにも熱が入るのではないのでしょうか。その勾玉は、今回は粘土で作ります。その粘土ですが、「約2000年前の、弥生時代の遺跡から見つかったものですよ」と伝えたら、子どもたちはパンツの時と同じように、「えーっ」と驚いていました。作り方を説明し、ひとりずつ粘土を渡していきます。



粘土は、長い間地中にあったものなので、乾燥しやすく、水で湿らせながら形を整え、紐を通す穴を竹串であけていきます。ひとりが3個作れるくらいの量なので、みんな一生懸命です。細いの、太いの、長い、短いなどなど、様々な形の勾玉ができあがりしました。でも、まだ完成ではありません。乾燥させて、七輪で焼き上げて完成です。このため、文化財

課に持ち帰り、後日届けました。この粘土で、遺跡から出土したさまざまな土器も作られていたのでしょう。



先に作り上げた子どもは、左の写真の「アングイン」体験です。これは、弥生時代の織り機です。この織り機によって、たくさんの織物が作られていたのでしょうか。気に入ったらしく、一生懸命編んでいました。

片付けをしたら、先週見たいと希望があった人骨の披露です。右の写真の担当の前に小さく写っているのが「頭骨」です。性別、年齢を想像してもらいました。



た。答えは、女性で50歳代でした。人骨からわかること、特徴を話し、友達同士で頭の形を観察してもらいました。

これで、6回にわたった出前授業も終わりです。最後に、子どもたちの代表から、「生まれる前の知らない世界で、どんな暮らしをしていたのかよくわかった。竪穴住居など今の暮らしとは違うが、今の建物のヒントになっている。昔の人がいなかったら私たちの今はないのではないか。昔と今がつながっていると思った。



多くの人見興味を持ってもらいたい」と、私たちとしては涙が出るほどうれしいお礼の言葉をいただきました。

これからも、たくさん的大道具や小道具を持って、各小中学校を訪問したいと思っています。明道小6年のみなさんありがとうございました。